

9月17日 年間第 24 主日

借金を帳消しにする

マタイによる福音書 18 章 21～35 節

²¹ そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」²² イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。²³ そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。²⁴ 決済し始めたところ、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。²⁵ しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。²⁶ 家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。²⁷ その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。²⁸ ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。²⁹ 仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。³⁰ しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。³¹ 仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛み、主君の前に出て事件を残らず告げた。³² そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。³³ わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』³⁴ そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。³⁵ あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。』

他の朗読：シラ 27:30～28:7 詩編 103:1～4, 9～12 ローマ 14:7～9

Lectio … 読む

赦しに関するイエスの教えを続けてみていきましょう。ペトロはどのくらい広く赦さなければならぬかを知りたいと思っています。そこで、イエスに罪を犯し続ける兄弟を何回赦さなければならぬかを尋ねます。7回で十分でしょうか。イエスは「7の70倍」と答えます。これは文字通り受け取るべきではなく、精神の寛容さを表しているのです。実際には、イエスは記録をつけ続けるのではなく、ただ赦し続けよ、と言っているのです。

イエスのご自身の要点を説明するために、1つのたとえ話をつけ加えます。1人の家来が決して返済できないような巨額の借金を王にしています。家来は慈しみを懇願します。そして借金から完全に解放されるのです。帳簿はきれいに消され、新鮮な出発が許されます。しかし、話はここで終わらないのです。この家来自身、自分の仲間に小額の金を貸しています。この仲間に慈しみを示すことなく、反対のことは行います。彼は金を全部返せと言い張るのです。そして自分の仲間を牢に入れてしまいます。彼の行動を知ったとき、王は怒り、借金を元通りにして彼を牢に入れてしまいました。

イエスが伝えたいことははっきりしています。私たちは、決して返済できない多額の借金を赦してもらったその家来と同じです。もし私たちが仲間の兄弟姉妹に対して、これよりもはるかに小さな罪を赦さないならば、私たちは神の裁きにあうでしょう (35 節)。

キリスト者として、私たちは仲間のキリスト者が私たちに罪を行った場合には、遅滞なく彼らをいつも赦す気でいなくてはなりません。このようにして、神の愛と赦しを世界に示すのです。互いを赦しあうこと無しに、私たちの教会共同体は信じ合うことを証しすることはできないのです。

Meditatio … 黙想する

このたとえ話は神の本質について何を教えているのでしょうか。

あなたは、決して返済できない巨大な罪の借金を赦されていると自分自身認識していますか。このことは他人を赦そうとする意思に影響を与えますか。

このたとえ話の中で、王は借金を帳消しにしましたが、神は私たちの罪をこのように対処することはしませんでした。私たちの借金はどのように払われましたか。このことに私たちはどう応えますか。

Oratio … 祈る

今日、大抵の人々は罪を無視したり、言い訳をしたりします。あなたは自分自身の罪をどのように見えていますか。詩編 51 編を祈りとして用い、慈しみに満ちた神にあなたの罪を告白してみましょう。

Contemplatio … 観想する

詩編 103 編の素晴らしい約束を黙想してみましょう。

「天が地を超えて高いように

慈しみは主を畏れる人を超えて大きい。

東が西から遠い程

わたしたちの背きの罪を遠ざけてくださる。」(11、12 節)